

景況レポート

(7月分・情報連絡員80名)

製造業で景況感が後退

【概況(全体)】

7月分の県内景況は、前年同月と比較して景況が「好転」したとする向きが8.8%(前回調査13.8%)、「悪化」が37.5%(同40.0%)で、業界全体のDI値は-28.7となり、前月調査と比較し2.5ポイント下回った。

全国及び東北・北海道ブロックとの比較では、本県の景況DI値は、製造業、非製造業とも全国及び東北・北海道ブロックを下回ったことから全体のDI値についても低調に推移した。

【業界別の状況】

業界別では、卸売業や建設業などの一部で好転したとする向きが見られるものの、食料品製造業、小売業、商店街などで業況の悪化割合が増加したことで景況感が後退した。

なお、全体の景況感は、全国的な猛暑と夏期需要が関連商材を中心に売上高を下支えしたが、他方では豪雨被害による需給不調や物流の混乱が広範に生じており、また雇用難や輸入資材のさらなる高騰等、国内外の諸要因が経営全般におけるコスト上昇に一層の拍車を掛けている。

<全国及び東北・北海道ブロックとの景況DI値の比較>

	秋田県	全 国	東北・北海道
全 体	-28.7	-17.9	-22.7
製 造 業	-34.3	-16.3	-23.3
非製造業	-25.0	-19.2	-22.3

<景況天気図>

項目	業界の景況	売上高	販売価格	取引条件	資金繰り	雇用人員
製 造 業						
非製造業						

【凡例】



【天気図の見方】

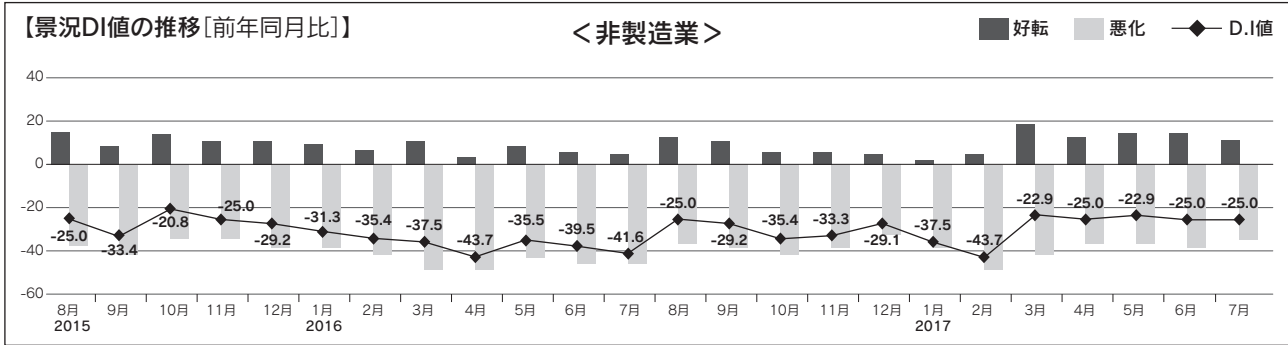
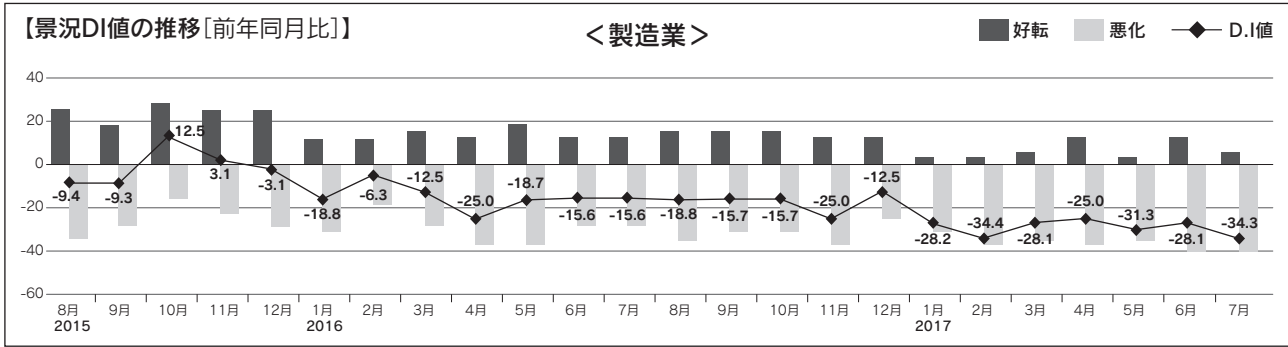
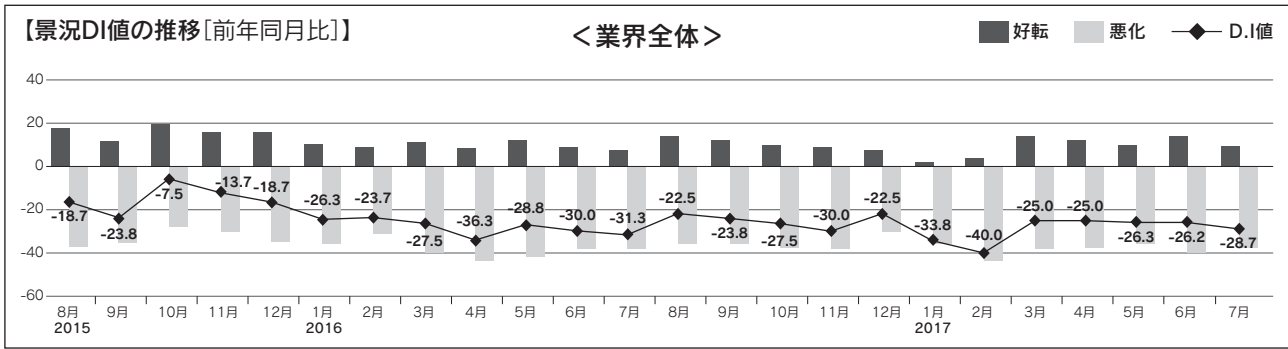
前年同月比のDI値をもとに作成しています。

※DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、増加(好転)したとする企業割合から、減少(悪化)したとする企業割合を差し引いた値です。

【業界の声】 ~製造業~

(回答数：32名 回答率：100%)

食料品 (豆腐)	売上、数量ともほぼ前年並みで推移した。一年中では一番売上の低迷する時期であり、景況は良くない。
食料品 (パン)	天候不順、特に暑さの影響が大きく、売上は不振であった。原材料価格の値上がりは続いている。
食料品 (菓子)	今年は暑く全般的に生和洋菓子の売上が減少し、菓子業界にとって厳しい状況である。夏季にかき氷を販売するお店も多くみられ、かき氷販売の出だしは好調のようである。
繊維工業 (ニット)	秋物生産の最盛期であり、各社ともフル稼働している。ただ、先月までの店頭販売状況が不調なことから、在庫過多を理由に加工賃の値下げ要請が例年より強く、価格交渉に苦労している。
木材・木製品 (一般製材)	製品の販売量は前年同月比では微増であるが、製品販売価格は据え置きとなり、景気回復の実感はない。大雨により林道が壊れ、原木の伐採・搬出が出来ない被害が出ている。搬出が遅れると虫食いが発生し、製品の歩留まり悪化の要因となっている。
木材・木製品 (素材生産)	合板原木については、各合板工場の稼働率が向上しているが、これまでの工場の手持在庫が多いことから納材量は横ばいで推移している。なお、生産量については、虫害等から素材生産量が減少しており、在庫は減少。製材用原木の生産量及び消費については、製材品の需用が安定していることから順調に推移している。
窯業・土石製品 (生コンクリート)	7月の出荷数量は、前年比96.7%、4月～7月累計で94.0%となった。本荘由利地区(前年比73.5%)、県南地区(前年比76.7%)が厳しい状況である。特に県南地区は昨年8月から1月出荷数量分を除いて11カ月前年を下回っている。
鉄鋼・金属 (機械金属)	好調だった前年同月期に比べ、今年は民間・公共工事ともに動きが鈍く回復には至っていない。
鉄鋼・金属 (鉄鋼)	6月後半より7月に入り、官公庁、民間とも物件が活発になっている。手持工事も9月～10月頃までは各社とも受注を確保している状況にある。
一般機器 (金属加工)	受注動向は好調に推移している。原材料の鋼材価格は上昇傾向にあり、依然として単価、納期等取引条件の厳しいものが多い。



【業界の声】 ~非製造業~

(回答数：48名 回答率：100%)

卸売業 (青果)	7月の売上は、前年同月比92.4%で推移した。県内外の記録的大雨被害により、野菜によっては入荷数に偏りがみられた。
卸売業 (卸団地)	需要の停滞を感じる企業が多く、特に建設資材、文具関係、日用雑貨等を取り扱う業者が苦戦している。
小売業 (自動車)	7月の新車販売台数は、登録自動車が2,308台(前年同月比96.3%)、軽自動車が1,871台(同115.3%)で、合計4,179台(同104.0%)であった。軽自動車は4カ月連続して2桁の伸びとなったが、登録車は10カ月ぶりのマイナスとなった。
小売業 (石油)	ガソリンの小売価格は、1ℓあたり130円00銭で前月比0.2円の値上がり、軽油は1ℓあたり110円60銭で前月比0.8円の値下がり。原油価格は上昇したが、為替が円高に振れたことで末端価格は小幅な値動きとなった。
商店街	中元の時期となり、関係する業種が一部では忙しい状況にあるが、全体としては昨年対比で悪化している。(鹿角市)
サービス業 (自動車整備)	7月の自動車検査台数実績では登録車が3.0%の減少、軽自動車が0.5%の微増、全体では前年同月比で1.6%の減少となった。4月～7月の全体の累計が前年同期比で5.4%の増加となっている。
サービス業 (タクシー)	運送収入の減少が続いているが、乗務員不足によるものである。地区によっては天候によって大きく左右されている。乗務員1人当たりの運送収入は増えている。
建設業 (管工事)	管材の動きがあまり無いが発注工事は少しずつ出てきており、来月以降に期待している。
建設業 (電気工事)	暑さの影響で一般住宅のエアコン取付工事等の需要があった。また、県内一部地域の豪雨による河川の氾濫で床上浸水などの被害があったことで電化製品の需要があった。住宅以外では、建物の改築・改装があり、先月に比べると良い状況だった。(中央地区)
運輸業 (トラック)	荷動きは前年比ではあまり変わらないが、前月比は全体的に上向き傾向にある。(中央地区)